

マルチパーパス・ツリーにひとこと

渡 辺 弘 之

ICRAF (International Council for Research in Agroforestry) から, Multipurpose tree data sheet というのが配付され, その回収・集積が進められている。最近のニューズレターでは, すでに 50 か国から 220 枚の記録が集まったそうである。

アグロフォレストリー (Agroforestry) のことを少し勉強してみると, 人によってアグロフォレストリーの定義が実にさまざまなこと, アグロフォレストリーに含まれる土地利用状態・産業形態の幅広いことに驚き, より混乱してくるのだが, 一応, 「同一の土地を林業・農業・畜産業, 時には, 水産業が, 同時に (あるいは交代で) 利用する土地利用形態」で, ほぼ一致しているとしておこう。

このアグロフォレストリーにより, 森林から木材・薪炭を得, 地被により養分・水分の消失を抑える一方, 森林内に農作物 (食料・飼料・工業原料) を同時に (あるいは交代で) 水平・垂直的に混植し, また, 家畜の放牧・養蜂・池沼での養魚などを行なおうとするものである。

アグロフォレストリーにおいて, 森林の造成・維持は最も大きな目的の一つであることは確かなのだが, そこでさがしているマルチパーパス・ツリーとは, 一体どんなものなのであろう。ところが, ICRAF では, このデータシート of 回収にあたって, マルチパーパス・ツリーを「収穫の持続, 生産の増大, 投資の軽減, そして, 生態的安定性に有効なもの」と, きわめて抽象的に述べているだけである。

これまで, 発展途上国で積極的にすすめられているアグロフォレストリーの実践には, 人口増加に伴う食料不足, 森林の減少・消失, 生活環境の悪化を, 何とかこの方式でくい止め, 改善しようという背景があった。

それだけに, 樹木の“早生”は最大の利点とみなされ, アグロフォレストリーのために選ばれてきた樹種は, いわゆる早生樹が主で, ユーカリ, アカシア, センダン, マツ, ギンネム, モクマオウ類などであった。これはあくまで, 早く森林を回復してくれること, 早く薪炭材, あるいは飼料として利用できるという目的により選ばれたものである。

その地域で実行されるアグロフォレストリーの目的が, とまかくも地被回復・森林造成であれば「早生樹」でいいのだが, 住民の生活を支えながらの森林造成・森林維

WATANABE, Hiroyuki: A Comment on Multipurpose Tree

京都大学農学部

持であるのが普通なのだから、当面の生活のために、もう一つ利用用途がほしい。ICRAF が考えるマルチパーパス・ツリー・データーシートの集積目的も、当然、そこにあるのだろう。

データーシートによれば、マルチパーパス・ツリーとして、その利用目的に次のような項目がある。

食料（果実・ナッツ・野菜・油脂・でんぷん・スパイス）

飼料（葉・さや・種子・新梢）

木材（薪・木炭・柱材・板材・工芸）

その他（ワックス・精油・タンニン・染料・ゴム・繊維・薬用・観賞）

サービス（防風・土壌保全・飛砂防止・生垣・窒素固定・マルチング）

該当する項目にチェックし、項目ごとで、順位をつけるのである。

これに従い、マルチパーパス・ツリーを文字通りに解釈すると、できるだけたくさん項目が満されるもの、さまざまな利用方法のあるものということになる。イメージとして、実は果物となり、葉は食用・飼料になり、また薬用にもなる。枝は火力が強く薪炭に適し、材は柱材にも板材にも適し、端材は工芸に使え、樹皮にタッピングすればゴムや精油がとれ、切枝は観賞用に使われ、森林そのものは防風に役立ち、窒素固定をもしてくれるといったことにでもなろうか。

私なりに、これにつけ加える条件は、その地域の自然条件下で良好な生育を示し、保育・管理がしやすく、組合せる農業・畜産業・水産業にもプラスに働くものということになるが、いずれにしても、ずいぶん欲ばった期待である。

それでも、そんなうまい話があるかなという疑問も浮かぶ。多分、ICRAF としても、そんな 100 点満点までは期待しておらず、いくつかの利用目的を持ったものというところであろう。もし、そんなマルチパーパスの樹木が見つければ、砂漠化の危機にさらされているようなところ、自給経済の比重の高いところ、いわゆる限界地域では、たいへんありがたいはずだ。

しかし、もしみつかったとしても、ちょっと心配なこともある。樹木はそれぞれが特徴をもっている。一つの樹種に多種の用途・効果を期待すると、案外「アブハチとらず」になって、経済的にも不利になったりするのではないかと思ったりする。生態的にも、マルチパーパス・ツリーの単純一斉林をつくれれば、その構造はきわめて不安定なもの、病虫害の発生などが起るにちがいない。

私には、マルチパーパス・ツリーの発見・導入よりも、特徴をもった何種かの樹種の組合せ、樹木の種類と作物の組合せ、そして、その管理方法を、もっと熱心に調べる方がよりオーソドックスな、また、より緊急なものではないかと思える。どんな樹木間の組合せがあるのか、樹木と農業・畜産業・水産業にどんな組合せが試みられたのか、その利点・欠点、成功したのか、なぜ、失敗したのかなど、それらの評価をやってほしいと思う。事実、さまざまな組合せが各国で試みられているのである。

マルチパーパス・ツリー・データーシートが、夢のようなマルチパーパスの樹木の発見を目的とするのでなく、それぞれの樹木の特性をひきだす樹木の組合せ、樹木と作物などとの組合せの評価と、今後の試験項目の設定に利用されるといい。そう思いながら、日本のマルチパーパス・ツリーに思いをめぐらせている。